さんにち NIE ワークシート　　山梨日日新聞

年　　組　名前：

学校に「小川」再現

昭和・押原小 ビオトープを改修

昭和・押原小は、かつて町内を流れていた小川の風情を再現しようと、敷地内にあるビオトープの改修を進めている。子どもたちに自然豊かな町の良さを感じ、古里に愛着を持ってもらうのが狙いで、水辺で生き物を観察しやすいように環境を整え、町内の川で捕獲された魚を放流した。今後、周囲で季節の植物も育て、環境教育の場としても充実を図っていく予定。〈杉原みずき〉

ビオトープは現校舎の完成に合わせ、2004年に整備された。全長約140㍍で、敷地内で引き上げた地下水が校舎の前を流れ、校庭の外の川に合流している。当初はメダカやドジョウなどが放流され、子どもたちは水に触れられたが、最近はヨシが生い茂るなどして、水辺で観察するのは難しい状態になっていた。

ビオトープに魚を放流する児童＝昭和・押原小

スマホで動画 MOVIE

同校によると、町内は湧き水が豊富だが、地方病（日本住血吸虫症）の撲滅に向けた水路のコンクリート化などにより、湧き水が自然な形で流れる場所は見られなくなった。本年度着手したビオトープの改修計画では、コンクリート化される前の原風景の復活を目指している。

夏にヨシなどを除草。10月18日には総合学習の一環で、3年生約50人がビオトープに魚を放流した。県水産技術センターが同町紙漉阿原の今川で調査捕獲した魚の提供を受けた。カマツカやヨシノボリ、オイカワ、ドジョウなど9種類がいて、児童はセンター職員に魚をたらいに入れてもらうと、「元気でね」「大きくなってね」と声をかけて放した。

「自然の中にいる魚が学校に来て、自然と触れ合える」と吉田陽登君。長沼結那さんは「みんなが魚に興味を持てるようになる」と話した。深沢秀興校長は「豊かな生態系や水の文化があると知り、自分たちの古里がいいところだと思ってもらえるようにしたい」と話している。

（2022 年 11 月 8 日付 山梨日日新聞 16 面）

問1 押原小は、敷地内にあるビオトープ（動植物が安定して生息することのできる空間）を改修して、何を再現しようとしていますか。

問2 10月に、3年生がビオトープに放流した魚の種類を4種、答えてください。

・　　・　　・　　・

問3 深沢校長は、この活動について、どのように話しましたか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2022 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.